

# エルドレーン載荷試験

平成27年 6月30日



株式会社 総合開発

### 1. 試験目的

実施工状態のエルドレーンが土羽や背面土による荷重の作用に対し、全体が安定しているか、パネルや接続部が安全であるか確認した。

### 2. 試験方法

下図のように施工されたエルドレーン背面土天端に、1:2.0の土羽の荷重を想定し換算したコンクリートブロックで載荷した。

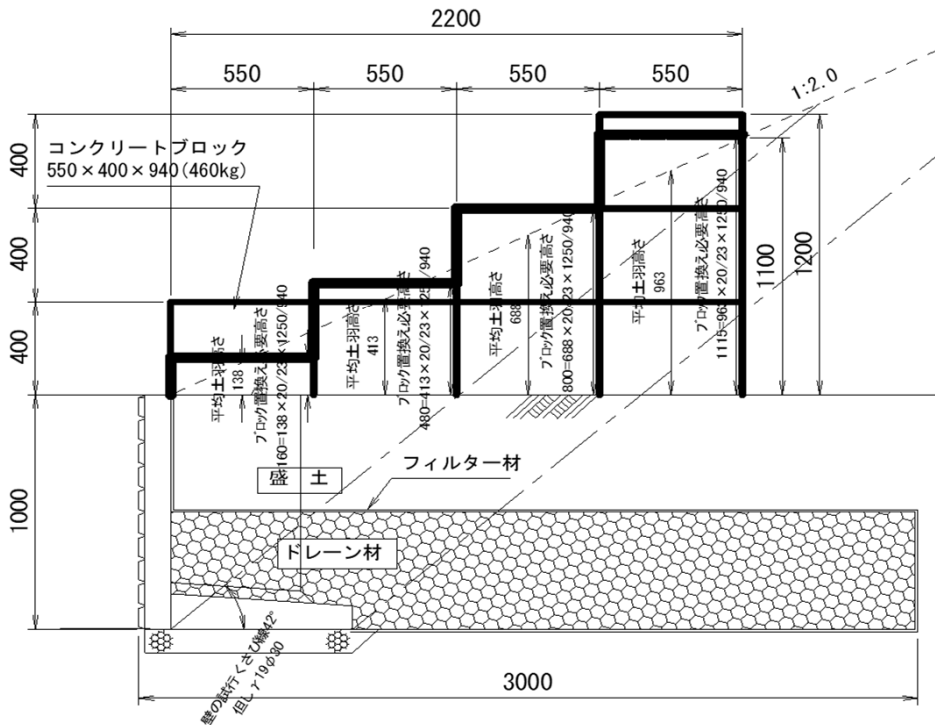
### 3. 試験条件

- ケース1: H=1000 平場0.0m, 1:2.0の土羽荷重を想定
- ケース2: H=1900 天端フラットの2段目H=900の鉛直盛土荷重を想定
- ケース3: 写真③の状態(ケース1以上の荷重状態)

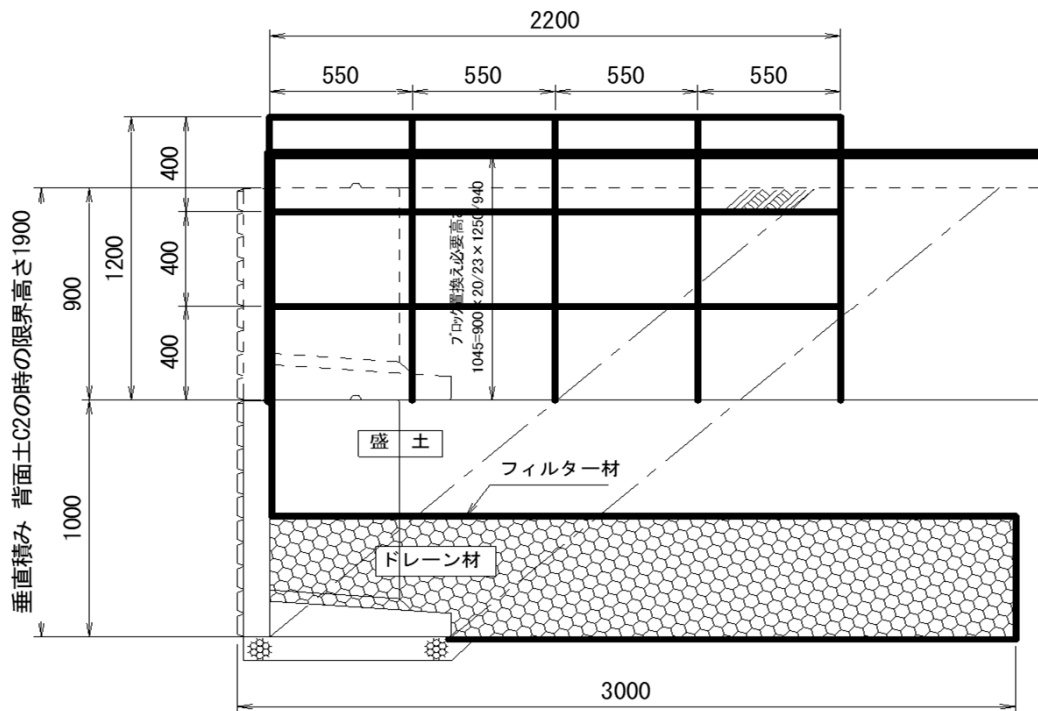
ケース1,2,3においては、写真のNO.1~4の4点にダイヤルゲージを設置し、変位量をデータロガーで記録する。

ケース3においては、長期経過観察(2015/1/27~)とし、基準ラインからの距離の変化を鋼尺で測定する。

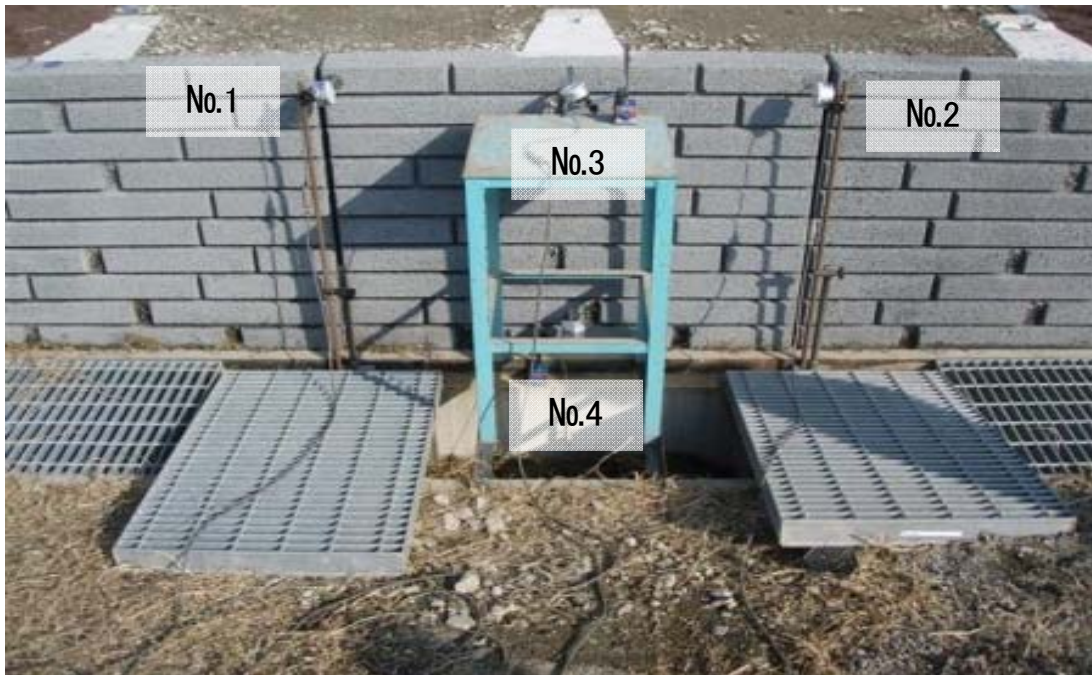
ケース1 : 1:2.0土羽,  $\gamma_s=20\text{kN/m}^3$ を想定



ケース 2 : 垂直積みH=1900,  $\gamma_s=20\text{kN/m}^3$ を想定



ダイヤルゲージ設置位置



## 積載状況（ケース3）



### 4. 試験結果

載荷開始日：2015/1/27

		NO.1	NO.2	NO.3	NO.4
ケース1	1時間経過確認	0.02	0.06	0.04	0
ケース2	18時間経過確認	0.32	0.18	0.02	0.06
	8時間経過確認	0.31	0.18	0.05	0.02
ケース3	3ヶ月後(2015/4/30)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	14ヶ月後(2016/3/24)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし

- ・ ケース1, 2, 3 いずれも、0.5mmにも満たない変位で、部材にもひび割れ等の以上も見受けられなかった。
- ・ ケース2、ケース3では、載荷開始から6時間から12時間の間に上記変位量に達し、その後は変化は見られず、安定した状態であった。